

# 図書館だより Vol.5 2022年12月

宝塚医療大学和歌山保健医療学部附属図書館



附属図書館運営委員長よりごあいさつ

師走を迎え本年も残すところ1ヶ月となりました。

さて、おいしん坊の私は、和歌山と聞いたらミカンとマグロを連想します。私の生まれ故郷の岡山県倉敷市はマスカットの産地であり、お隣の岡山市は清水白桃の産地として全国的に知られています。温州ミカンもあるのですが和歌山産と比べ、やや酸味が強くなります。和歌山産の美味しいミカンを食べてビタミンCを補給し、風邪をひかないようにこの冬を過ごしましょう。

附属図書館運営委員長：松尾 博史

附属図書館運営委員会からのお知らせ

本年度に入り、宝塚医療大学附属図書館規則が変更され、宝塚キャンパスに設置されている附属図書館を「附属図書館宝塚本館（本館）」とし、和歌山中之島キャンパス及び西庄キャンパスに設置されている附属図書館は「附属図書館和歌山分館（分館）」として運営していくことになりました。これにより、それぞれのキャンパスに所属する学生や教職員は本館及び分館がそれぞれ所蔵する書籍を閲覧することができるようになります。現在本館側の方でILL（加盟図書館間の相互貸し出し）の運用を行えるよう学内の規約改正を行ってもらっており、これが完了すればネット経由で分館からも本館の書籍を借りることができるようになります。今しばらくお待ちください。



推薦図書

「病気がみえる」シリーズ 全15巻

監修者：武藤 学 他

出版社：メディックメディア



「病気がみえる」シリーズ全15巻を図書室に揃えて欲しいと私が大学に希望を出していましたところ、図書館長の松尾先生が本学学生の勉学に必要だろうとお考えになり、松尾先生自ら図書館へ寄贈してくださいました。

この「病気がみえる」シリーズは、内科・外科のみならず、泌尿器科、産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児科、（精神科も出版予定）の主要疾患と、それに関わる解剖・生理を図表、イラスト、グラフ、写真などで解りやすく解説されています。特に、図表、イラストが多用されているので、理解が容易であるとともに記憶に残りやすいように工夫されています。恐らく皆さんが色々な病気について深く知りたい時には多いに参考になると思います。さらに、専門外の病気について調べたい医師のみならず、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、救命救急士など、チーム医療に関係する多くの職種の人たちの座右の書として有用な参考図書であると考えています。宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科で行っている私の神経内科学および神経内科学演習の講義にも、「病気がみえるの脳・神経」に収載されている図表を講義資料として提供しています。

「病気がみえる」シリーズの姉妹図書として「薬が見える」シリーズ全4巻もあります。この「薬が見える」も薬に対する解説書として非常に解りやすく、私はこれまで和歌山県立医科大学で教えてきた医学生や看護学生の薬理学の講義資料として活用してきました。宝塚医療大学和歌山保健医療学部のリハビリテーション学科および看護学科でも薬理学の講義が行われていますが、その薬理学の学習に非常に役立つ参考図書と考えています。

推薦者：岸岡 史郎

